

所属	言語文化研究科 日本語・日本語教育専攻 修士課程	修了年度	平成24年度
氏名	橋本 博	指導教員	多田 孝志

論文題目	超高齢社会と日本語教育パラダイムに関する考察
------	------------------------

本文概要

日本語教育の重要性の高まりにもかかわらず、国内各日本語教育機関における日本語教師は非人権的状況におかれている。一つの原因として諸主体の複雑性・多様性が未整理のまま日本語教育が発展してきたことが指摘される。本研究は、コンテクスト教育を要諦とした高齢者日本語教師と学習者との結合、ひいては混沌とした日本語教育から基本的人権としての「公日本語教育」へのパラダイム転換の提案である。

第1章では、現代の日本語教育を意義と理念の視点から分析する。従来の日本語語彙・文構造教育、外国人、教育のみが主たる構成要素とされる傾向から、コンテクスト、日本国内における市民教育、外国人のみならず母語話者つまり日本人自身も、教育のみならず学習の重要性をも含めて、日本語教育をより広く扱う。その上で、言語使用の人権性として、国・自治体に対する「やさしい日本語」・「多言語社会」の諸施策の義務付けとともに、すべての住民に対する日本語教育の人権性を確認する。

第2章では、現代の日本語教育を理論と実際の視点から分析する。時代の変遷とともに日本語教育理論・実際もマルチメディアの視点から見直されるべきである。社会の進化、複雑化に対応する高度のコミュニケーション能力として、BICSを超えたCALP、読み書きリテラシーの重要性並びに日本語学習の学校教育に対する前段階性につき言及する。

第3章では、超高齢社会と日本語教育の関係について、日本語教師の能力の点から考察する。世界唯一の超高齢社会である日本には、団塊の世代をはじめ、厳しい受験戦争を生き抜き、日本の高度成長をけん引し世界で活躍してきた多彩な人材がある。にもかかわらず、彼らの高度な能力を生かす職場は少なく、社会の損失となっている。ところが、地域日本語教室にはボランティア精神にあふれた元企業戦士が余生を日本語教育による国際交流に捧げようと集まってくる現状があるが、ここも高齢日本語教師と学習者をつなぐ発想に乏しい。日本語公教育の理念の下、公日本語教室を整備し彼らの優れた能力を有効利用すべきである。

第4章では、近年の日本語学習者ニーズの変遷、とくに大学受験から大学院受験へと移行しつつある留学生のニーズから、必要とされる日本語教師の能力を考察する。

第5章では、日本語教師の資格について前章の実質面から考察する。

第6章では、国内日本語教育機関の現状について、必要とされる授業内容から考察する。

第7章では、地域日本語教育の問題点と高齢日本語教師の有効利用、公日本語教室の実現可能性について言及する。

終章として、従来、市場原理やボランティア精神に依存してきた日本語教育界を、公益的原理によって機能・運営させることにより新たな日本語教育パラダイムの構築を提案する。大学院留学生や移動する子どもたちの成長など学習者ニーズの変化、マルチメディア時代の教育・学習技術の変化、超高齢社会における人材構成の変化など、激変の時代に合ってひとり日本語教育界のみが傍観していることは許されない。本論文は、このような社会の変化に対応した教育現場の改革と、憲法上の基本的人権「日本語を学ぶ権利」に対応する制度の確立を提言する。